

東みよし町「旧三加茂町」における 農具市と民具の流通

民俗班（徳島民俗学会）

磯本 宏紀*

要旨：人びとの生活と産地を密接に結びつける物品取引の場として、農具市があった。東みよし町「旧三加茂町」においても、竹細工屋、鍛冶屋などにより製作された農具等を扱う農具市が開かれてきた。平成24年度阿波学会調査において、それにかかわってきた売り手、買い手、および会場となった寺社等に関する調査を、聞き取り調査を中心に行った。また、あわせて職人らによる行商等の実態についての聞き取り調査を行った。その結果、該当地域を中心として、広域におよぶ竹製品、鍛冶等民具の流通と、それにかかわる人びとの認識の一端が明らかになった。

キーワード：農具市、竹細工、鍛冶、行商、福性寺奥の院不動院

1. はじめに

市は寺社の祭礼等にあわせて開かれることが多い。そこに集まる人びとを対象として、行商が訪れ、定期的に市を形成した。それは、人びとが集まる場であると同時に、そこでの取引を通じた情報や物品の交流と普及の場でもあった。

磯本（2012a）においては、東みよし町「旧三加茂町」域より東の地域における農具市および民具の流通の実態を確認した。しかし、東みよし町「旧三加茂町」においては未調査であり、平成24年度阿波学会調査においては、まずは基礎的な資料の集積を進めた。

方法として、東みよし町「旧三加茂町」域における農具市および行商等に関する聞き取り調査を主として行い、必要に応じて一部の民具の資料調査も行った。

なお、本稿における報告は、2012年7月27, 31, 8月1日、3日に実施した調査によるものである。

2. 東みよし町「旧三加茂町」における農具市

農具市については、「郡内外の社寺の縁日に農具市が立ち、それが唯一の物資入手の自由市場になったようである」（三加茂町史編集委員会、1973：804頁）といった記述がある。しかし、これ以上に具体的な農具市の実態については書かれていない。少なくとも、三好郡内の範囲ではいくつもの農具市があったという確認にとどまる。

平成24年度調査ではこの点についての具体的な把握を試みたが、現時点において市として確認できたのは「鴨神社の市」、「お不動さんの市」、鍛冶屋敷のタバコ納付期の市の3件のみだった。その概要を以下に記述する。

①「鴨神社の市」（写真1）

秋祭りの際（11月初旬）、本殿から御旅所（東みよし町役場方面）に向かう参道に露店が並んだ。植木屋、種屋、軽食の店が10軒前後は出ていた。

* 徳島県立博物館



写真1 鴨神社鳥居付近

露天商組合に入っているテキヤが、他地域から来て店を開いていた。地元の職人等で店を出す人は少なかった。

②「お不動さんの市」(写真2)

福性寺の奥の院不動院の縁日(旧3月28日と旧8月28日)では、テキヤが集まり、市が立っていた。籠屋が来て、ケンド、オオミ(大箕)等売っていたが、農具を売る店は少なかった。「春秋の大祭には遠く岡山、愛媛より数千の参拝者で賑い、麓には縁日市がたって地方の祭日となっていた。」との記述がある(三加茂町史編集委員会, 1973: 1263頁)。

③鍛冶屋敷のタバコ納付期の市

昭和18年から昭和44年の間、葉たばこの取扱所が鍛冶屋敷にあった。納付時期には多くの人々が納付に集まり、現金を手にした。その付近の道に沿って市が立っていた。



写真2 福性寺境内

確認できた3件の市のうち、とくに多くの人を他地域より集めていたとされる市が、「お不動さんの市」と呼ばれる市であった。これについて、以下で詳細に述べる。

3. 福性寺奥の院不動院と「お不動さんの市」

福性寺奥の院には、漆谷不動明王を本尊とする不動院がある。毎月28日を縁日とし、旧3月と旧8月にはさらに多くの信者を集めた。このとき開かれた市が、「お不動さんの市」である。

徳島県阿波町(現阿波市)、鴨島町(現吉野川市)、香川県満濃町(現まんのう町)、観音寺市、愛媛県新居浜市、高知県野市町(現香美市)などにも講があり、各地にいた先達が、講中を連れて参拝に来ていた。

以前は雨乞い祈願を行っていた祈願所だったが、大正期、自らの参籠祈願から難病を平癒させた藤本又蔵により、病氣平癒の祈禱が行われるようになり、多くの信者を集めるようになった¹⁾。他地域からの参拝者の多くは、鉄道を使って不動院を訪れ、福性寺参道から境内に立つ市の近くを通り、福性寺境内では接待を受けた後、不動院に参拝していたという。縁日には、福性寺の檀家が参拝者らの接待にあっていた。

昭和10年ころの「お不動さんの市」には、5~7軒の露店が福性寺付近に並んだ。キャンディー屋、カタパン屋、わたがし屋、竹籠屋、植木・花屋、のぞきからくりなどが出ている。他地域から訪れるテキヤの親方が市割をし、各露店から寺銭を集めて寺に納めていた。地元の職人の市師としての参加は多くないが、竹細工職人や鍛冶屋敷の雑貨屋など数名が出店することもあったという。

昭和17年に藤本又蔵の死去後、先達の一人だった人物が後継となり、昭和30年代までは旧3月と旧8月の縁日には賑わっていたが、昭和50年代には市も開かれなくなった。

現在は、福性寺住職により毎月28日の不動講が行われている。

4. 移動した職人と行商

農具市における竹細工職人や農鍛冶等の関与はほ

とんど確認することができなかった。しかし、東みよし町「旧三加茂町」域には一定数の職人がいたし、その職人の製作による農具が使用されていた。

その一例として、東みよし町立歴史民俗資料館所蔵の万石^{まんごく}をあげることができる。万石からは、次のような墨書を、万石の本体側面、背面および漏斗部^{ろうと}から確認することができた（写真3）。

◎本体背面部

「三好郡加茂村

所有者 川原萬二郎

全郡全村製作人 伊原多平」

◎本体側面部 1

「明治四拾壹年拾壹月」

◎本体側面部 2

「徳島縣三好郡加茂村

川原萬二郎」

◎漏斗部

「共有連

坪井□□

野崎九平

三好利郎

玉内文平

宮内福助

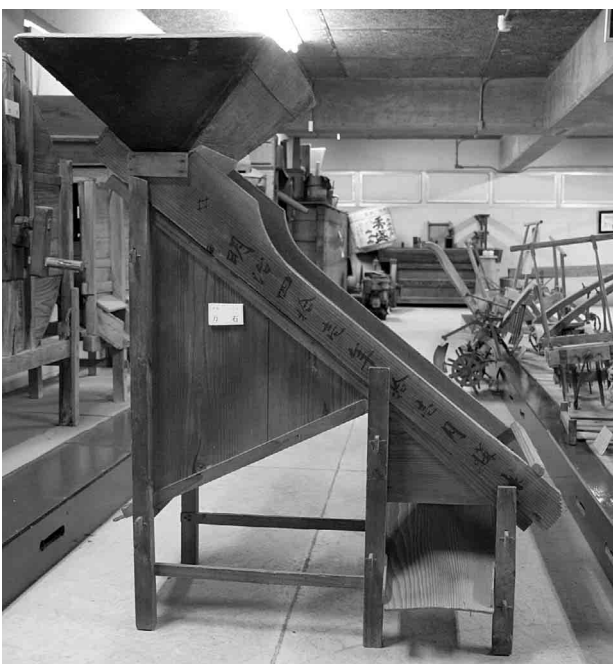


写真3 万石（東みよし町立歴史民俗資料館蔵）

片岡伊之吉」

三好郡加茂村で明治41年11月に製作された万石が、村内の使用者によって使用されていること、それも「共有連」として6名で共同使用されていたことが読み取れる。

明治末期から昭和前期までの鍛冶屋は、「農具」が9軒、「農具打刃物」が4軒確認できるし、昭和45年でも「農具製作修理」にかかわる「鉄工所」を6軒確認できる（三加茂町史編集委員会，1973：786～788頁）。また、竹細工についても昭和45年当時で4軒を確認できる（三加茂町史編集委員会，1973：792頁）。

この職人らの営業と移動の実態について、職人側、受け入れた側からの聞き取り調査により把握した。以下に3例をあげる。

◎事例1 中庄字西光の農鍛冶

中庄の西光地区の鍛冶屋は、西庄の五名地区、毛田の黒長谷地区、旧三野町太刀野山の中谷地区などで農鍛冶の出張営業をしていた。稲作が終わり、麦まき前後の秋には農鍛冶の需要が多く、月に10日ほどの出張し、現地に家を借りて農具修理等の作業をしていた。昭和50年ころには自動車で移動するようになり、香川県塩江町（現高松市）まで出張するようになった。

また、鍛冶に必要な木炭は毛田の黒長谷地区で仕入れていた。江口駅付近まで大八車を引いて行き、山から降ろしてきて積み込んで帰った。

◎事例2 西庄字谷合の商店

年輩の男性がバスに乗って行商が竹籠、大箕、小箕、ショロ（土箕）を売りに来ていた。どこから来ていたかは不明である。

11月初めに鴨神社の秋祭りの際に開かれる鴨市に出かけたが、野菜、機械、植木、種屋が多く、農具を売る露店は少なかった。

鍛冶屋敷で炭を売り、米などを買って帰っていた。

◎事例3 西庄字山根の元竹細工職人

カゴ、メゴ、ショロ（土箕）を、決まった家から

の個別の発注に応じて作り、持って行っていた。市に出してはいない。

竹細工で生計を立てるほど売れなくなったので、廃業し転職した。

いずれの事例についても、農具等の商品流通に関しては、職人らは行商や出張営業を行い、必要なときには需要のある場所に出向いて行っていた。移動は重要な営業形態であった。

5. おわりに

本稿では、東みよし町「旧三加茂町」域における農具市および民具の流通や職人らの移動について、主に聞き取り調査より整理した。磯本（2012a）において同様の方法で確認した吉野川市、阿波市、美馬市等と比較すると、東みよし町「旧三加茂町」における農具市をはじめとする市の数は少なかった²⁾。一方で、一定数の地域内在住の職人がいて、さらに他地域へ出かけて営業していたことも確認した。

吉野川市、阿波市、美馬市等と比べ市が少なく、農具等の流通の比重は、行商や出張営業にのみ依存する傾向が強かったと推定できる。旧町域のみの狭い範囲でいうなら、付近で市が開かれない山間地においては、とくにこの傾向が強い。だが、これをより広域で比較した場合の地域差について、その要因や背景について、本稿において言及できる材料はない。

したがって、今後の課題としては、さらに東みよ

し町「旧三加茂町」域の周辺地域に調査範囲を広げた事例収集により、この傾向や関係性を把握し、より広域な領域における傾向の抽出や比較検討を行う。

謝辞

本稿作成のための聞き取り調査において大茶雪子氏、川西正氏、白川真一氏、須藤隆賢氏、立花公男氏、長谷川隆法氏をはじめ多くの方にお世話になった。また、民具調査では、東みよし町立歴史民俗資料館にお世話になった。ここに記して感謝申し上げる。

注

- 1) 昭和初期（昭和10年ころ）には、病氣平癒の祈禱を行うオガミヤ（拝み屋）が他所にもあった。たとえば、三庄村丹田（西庄字丹田）にいた女性のオガミヤに、話者自身の母親の慢性頭痛を治してもらったという事例を確認した。祈禱の途中母親は一時憑依状態になり、キツネツキにあっていたとして、除霊により頭痛が治癒したという。オガミヤはその当時比較的高齢の女性で、現金ではなく礼物をもって拜んでもらいに行った。ほかにも多くの信者が訪れていて、とくに難病患者が多かったという。
- 2) たとえば、磯本（2012b）の表1では吉野川市山川町において平成23年度阿波学会調査で確認できた市の数は15件であった。

文献

- 磯本宏紀：(2012a) 吉野川流域における竹細工の流通と農具市—阿波市、美馬市、吉野川市の事例を中心に、徳島地域文化研究, 10号, 16~27頁。
- 磯本宏紀：(2012b) 吉野川市山川町における農具市と民具の流通, 阿波学会紀要, 58号, 157~160頁。
- 三加茂町史編集委員会編：(1973)『三加茂町史』三加茂町。

Markets and distribution farming tools in “ex-Mikamo Cho”, Tokushima, Japan

ISOMOTO Hironori,

Proceedings of Awagakkai, No. 59(2013), pp.137-140